



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2004.03.02 No. 27 - 60

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan 幹事会

〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274

日航706便事故裁判報告集会 裁判を振り返り 参加125名 検察・事故調の無謀な結論を暴き、真の事故原因を解説 弁護士による刑事責任追及の問題点を理論的に学習

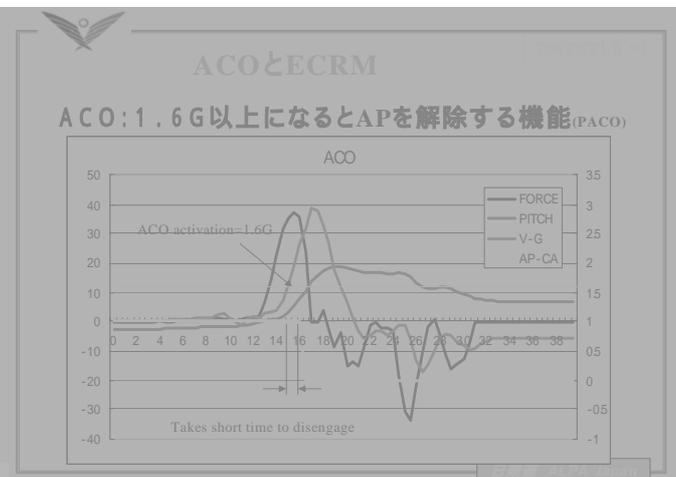


04年2月7日羽田ギャラクシーにおいて、日乗連加盟組合員を中心に125名の参加で、3月の結審を控えての総括的な報告集会を開催しました。第1部では各公判毎の検察・弁護双方の主張及び証言のポイントをまとめ争点・論点をレビュー。第2部では「裁判で争点になった事故調報告書の矛盾点」と「TSTによる真の事故原因」を技術的に解説しました。この第2部では裁判の進行上明らかにできなかった分析を初めて披露。

事故調・検察のいう「オーバーライド」ではなく FCC (フライトコントロールコンピューター) が設計を超

える逆転層、パラメーターの増大による一時的なフリーズを起こした為、一連のピッチアップ、オシレーションを発生させたメカニズムを解説。シュミレーターでも再現され、確認されたものであることを明らかにしました。

第3部では裁判担当の藤井弁護士から、当該機長から事故の状況を聞かなかった事・シミュレーターを使った検証が不十分だった事から事故調・検察は初歩的な誤りを犯したが、その誤りを万全の準備の



起訴理由2: 急激な機首上げ

706 TSTによる分析 PRD



もと反論してきた闘い方を説明。「疑わしきは被告人に不利益に」が現実になっている日本の刑事裁判においては、マスコミの理解、傍聴による裁判監視などの運動が必要であり、成功しているとの評価をしていただきました。さらに日乗連顧問の米倉弁護士からは、事故調査報告書が鑑定書として流用されている現状では「鑑定人が不明」「反論の証拠が入手しにくい独占的証拠」「伝聞証拠」などの問題を解説していただきました。

次回公判は結審3月24日です

